

《金子みすゞ感想文最優秀賞 ===== 新居浜市立角野小学校 6年 竹内優等》

金子みすゞの作品を読んで



イラスト 尾崎真吾

「金子みすゞ童謡全集」
JULA出版局より

いえいえ、それは、
名のない草の、
お宿をするよ。

打(ぶ)たれぬ土は、
踏まれぬ土は、
要(い)らない土か。

朝から晩(ばん)まで、
踏(ぶ)まれる土は、
よい路(みち)になって、
車を通すよ。

こっつん、こっつん、
打(ぶ)たれる土は、
よい畑になって、
よい麦生むよ。

土

わたしは、金子みすゞさんの作品を読んでたくさんの事を感じさせられました。その中でも、「土」と「硝子と文字」という詩が強く心に残りました。

一つ目の詩、「土」は、人を土にたとえて必要のない人なんていなくて、いろいろな人たちが、それぞれ大切な役割を持っているということが伝わってきました。だから私もその役割を大切にしていきたいなと思いました。



イラスト 尾崎真吾

「金子みすゞ童謡全集」
JULA出版局より

けれども
たくさん集まると、
黄金(きん)のお城(しろ)の
お囃(はなし)もできる。

文字(もじ)は
蟻(あり)のように
黒くて小さい。

けれども
たくさん重なると、
海のように青い。

硝子(がらす)は
空っぽのように
すきとおって見える。

硝子(がらす)と文字

二つ目の詩、「硝子と文字」も、人を、硝子や文字にたとえていると思います。硝子は、一つだと、空っぽのようすきとおっています。文字も、一つだとありみたいに黒くて小さいです。でも硝子だって文字だって、たくさん集まれば、海のように青くなったり、黄金のお城のお囃ができたりします。金子みすゞさんは、人も同じだと伝えているのだと思います。人は一人では、出来ないことがたくさんあります。でもたくさんの人たちが集まって協力し合うことで、出来るようになることが増えたりするからです。

最近、日本でも様々なしん災が起こっています。そこで私は、募金をしたり、お母さんや妹、弟と一緒に服や水などを市役所に届けたりしました。

個人では出来る事は小さいけど、みんながこの活動に参加すれば大きな力になると思います。

「土」と「硝子と文字」は、そのことを私に再確認させてくれました。

これからも、自分に今、何が出来るか考えて行動していきたいです。